

b)

## WINDOW CONTENT DISPLAY METHOD

Patent Number: JP2000105655  
Publication date: 2000-04-11  
Inventor(s): SATO HIROSHI  
Applicant(s): NEC SOFTWARE KYUSHU LTD  
Requested Patent: ☐ JP2000105655  
Application Number: JP19980275936 19980929  
Priority Number(s):  
IPC Classification: G06F3/00; G06F3/16  
EC Classification:  
Equivalents:

---

### Abstract

---

**PROBLEM TO BE SOLVED:** To make specifiable a target application comprehensively in a short time even when the same icon is displayed on plural task bars by activating plural pieces of the same application software.

**SOLUTION:** In the state of moving a focus to an icon 4B with a cursor 5 in the state of displaying icons 4A, 4B and 4C respectively corresponding to the same windows 2A, 2B and 2C of a certain application software on a task bar 3 while simultaneously opening these windows 2A, 2B and 2C, for example, a blowout window 6 is secured on the front face near this icon 4B and data at one part of a file as an editing object are displayed in the window 2B inside this blowout window 6.

---

Data supplied from the **esp@cenet** database - I2

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号  
特開2000-105655  
(P2000-105655A)

(43) 公開日 平成12年4月11日 (2000.4.11)

(51) Int.Cl. <sup>7</sup>	識別記号	F I	テーマコード* (参考)
G 0 6 F 3/00	6 5 5	G 0 6 F 3/00	6 5 5 A
	6 5 3		6 5 3 A
3/16	3 3 0	3/16	3 3 0 C

審査請求 有 請求項の数 2 O L (全 5 頁)

(21) 出願番号 特願平10-275936

(22) 出願日 平成10年9月29日 (1998.9.29)

(71) 出願人 000164449

九州日本電気ソフトウェア株式会社  
福岡市早良区百道浜2丁目4-1 NEC  
九州システムセンター

(72) 発明者 佐藤 浩史

福岡県福岡市早良区百道浜2-4-1 九  
州日本電気ソフトウェア株式会社内

(74) 代理人 100062476

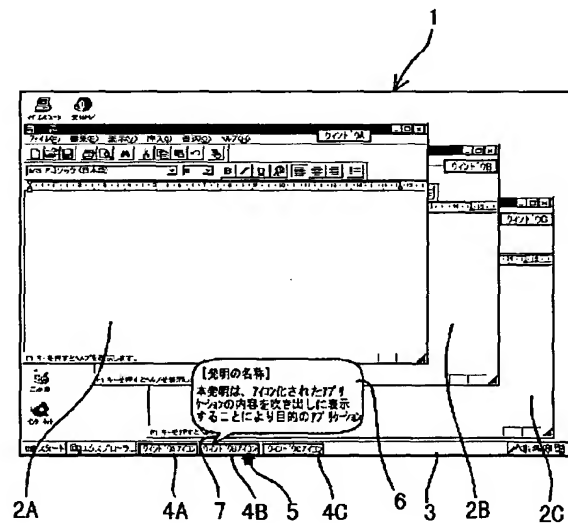
弁理士 原田 信市

(54) 【発明の名称】 ウィンドウ内容表示方法

(57) 【要約】

【課題】 同一のアプリケーションソフトを複数起動してタスクバーに同一のアイコンが複数表示された場合にも、目的のアプリケーションの特定を分かりやすく短時間に行えるようにする。

【解決手段】 あるアプリケーションソフトの同じ編集用ウィンドウ2A・2B・2Cが同時に開き、タスクバー3上に、これら3つのウィンドウ2A・2B・2Cにそれぞれ対応するアイコン4A・4B・4Cが表示されている状態で、例えばアイコン4Bにカーソル5にてフォーカスを移動させると、このアイコン4Bの近傍に吹き出しウィンドウ6が最前面に確保され、この吹き出しウィンドウ6内に、ウィンドウ2Bにおいて編集対象となっているファイルの一部のデータが表示される。



【特許請求の範囲】

【請求項1】ディスプレイ画面上に、起動したアプリケーションソフトのウィンドウを表示するとともに、各アプリケーションソフト毎のアイコンをタスクバー領域等に表示するウィンドウ内容表示方法であって、あるアプリケーションソフトのアイコンが選択されたとき、選択されたアプリケーションソフトに対して吹き出しデータ要求するステップと、この要求を受けたアプリケーションソフトにおいてその管理下のファイルからデータを取得するステップと、取得したデータを吹き出し表示可能な形態に編集するステップと、前記選択されたアイコンの近傍において吹き出しウィンドウを確保し、その吹き出しウィンドウ内に前記編集されたデータを表示するステップと、からなることを特徴とするウィンドウ内容表示方法。

【請求項2】ディスプレイ画面上に、起動したアプリケーションソフトのウィンドウを表示するとともに、各アプリケーションソフト毎のアイコンをタスクバー領域等に表示するウィンドウ内容表示方法であって、あるアプリケーションソフトのアイコンが選択されたとき、選択されたアプリケーションソフトに対して音声データ要求するステップと、この要求を受けたアプリケーションソフトにおいてその管理下のファイルからデータを取得するステップと、取得したデータを音声データに変換するステップと、変換された音声データを音声として再生するステップと、からなることを特徴とするウィンドウ内容表示方法。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】本発明は、ディスプレイ画面上に、起動したアプリケーションソフトのウィンドウ及びアイコンを表示できるパーソナルコンピュータや携帯情報機器等において、アプリケーションソフトのデータ内容を即時確認できるようにするウィンドウ内容表示方法に関する。

【0002】

【従来の技術】マイクロソフト社の提供に係るオペレーションシステムであるWindows環境では、アプリケーションの起動を行うと、そのアプリケーションのウィンドウと共に、アイコンがタスクバー領域に同時に表示される。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】しかし、同一のアプリケーションを複数起動して作業を行う場合には、タスクバーに同一のアイコンが複数表示されるため、現在作業中のアプリケーションから目的の他のアプリケーションを特定するのに、ウィンドウの切り換えを行わなければならないなどの作業を要し、時間がかかっている。

【0004】本発明は、同一のアプリケーションソフトを複数起動してタスクバーに同一のアイコンが複数表示された場合にも、目的のアプリケーションの特定を分かりやすく短時間に行えるウィンドウ内容表示方法を提供することにある。

【0005】

【課題を解決するための手段】本発明の第1の形態は、ディスプレイ画面上に、起動したアプリケーションソフトのウィンドウを表示するとともに、各アプリケーションソフト毎のアイコンをタスクバー領域等に表示するウィンドウ内容表示方法であって、あるアプリケーションソフトのアイコンが選択されたとき、選択されたアプリケーションソフトに対して吹き出しデータ要求するステップと、この要求を受けたアプリケーションソフトにおいてその管理下のファイルからデータを取得するステップと、取得したデータを吹き出し表示可能な形態に編集するステップと、選択されたアイコンの近傍において吹き出しウィンドウを確保し、その吹き出しウィンドウ内に編集されたデータを表示するステップとからなる。

【0006】本発明の第2の形態は、ディスプレイ画面上に、起動した複数のアプリケーションソフトのウィンドウを表示するとともに、各アプリケーションソフト毎のアイコンをタスクバー領域等に表示するウィンドウ内容表示方法であって、あるアプリケーションソフトのアイコンが選択されたとき、選択されたアプリケーションソフトに対して音声データ要求するステップと、この要求を受けたアプリケーションソフトにおいてその管理下のファイルからデータを取得するステップと、取得したデータを音声データに変換するステップと、変換された音声データを音声として再生するステップとからなる。

【0007】

【発明の実施の形態】次に、本発明の実施の形態を図面を参照して説明する。

【0008】図1は、一つのディスプレイ画面1上における本発明の表示例を示す。この例では、同一のアプリケーションソフトを3回起動させて、同アプリケーションソフトの同じ3つの編集用ウィンドウ2A・2B・2Cが重なり状態で開き、ディスプレイ画面1の下縁のタスクバー3上に、これら3つのウィンドウ2A・2B・2Cにそれぞれ対応する3つのアイコン4A・4B・4Cが左右に並べて表示されている状態を示している。

【0009】そして、3つのアイコン4A・4B・4Cのうちの真ん中のアイコン4Bを、マウス等のポインティングデバイスで選択、つまりアイコン4Bにカーソル5にてフォーカスを移動させたところ、このアイコン4Bの上側近傍に、吹き出しウィンドウ6が最前面に確保され、この吹き出しウィンドウ6内に、ウィンドウ2Bにおいて編集対象となっているファイルの一部のデータが表示された状態である。吹き出しウィンドウ6は、アイコン4Bに関連したものであることが分かるように、先

細状の延長部分7がアイコン4Bまで延びている。

【0010】このような表示を行う本発明の方法のフローチャートを図2に示す。同図において、左側に示すブロックはアイコン側での処理（アイコン処理ルーチン）、右側はアプリケーションソフト側（以下、「アプリケーション」と記す）での処理（アプリケーション処理ルーチン）を示す。

【0011】図2において、アイコン（図1ではアイコン4B）がマウスイベントを受信すると（ステップS1）、アプリケーションに対して吹き出しデータ要求を送信する（ステップS2）。アプリケーション側では、この吹き出しデータ要求を受信すると（ステップS3）、編集対象となっているデータファイル8からデータを取得し（ステップS4）、この取得したデータを吹き出し表示に適合した形態に編集した後（ステップS5）、その編集した吹き出しデータをアイコン側へ送信する（ステップS6）。

【0012】アイコン側では、アプリケーションからの吹き出しデータを受信すると（ステップS7）、その吹き出しデータを吹き出しウィンドウ6内に表示する（ステップS8）。

【0013】図3は、吹き出しデータを吹き出しウィンドウ6内に表示することに代えて、音声データに変換して音声をもって内容を報知する本発明の他の例を示す。同図において、アイコン（図1ではアイコン4B）がマウスイベントを受信すると（ステップS11）、アプリケーションに対して音声データ要求を送信する（ステップS12）。アプリケーション側では、この音声データ要求を受信すると（ステップS13）、編集対象となっているデータファイル8からデータを取得し（ステップS14）、この取得したデータを、音声ファイル9を参照して音声データに変換した後（ステップS15）、その変換した音声データをアイコン側へ送信する（ステップS16）。

【0014】アイコン側では、アプリケーションからの音声データを受信すると（ステップS17）、その音声データを音声再生部へ出力して音声として再生する（ス

テップS18）。

【0015】なお、図1に示した例では、同一のアプリケーションソフトを3回起動させて、同アプリケーションソフトの同じ3つのウィンドウ2A・2B・2Cが重なり状態で開いた場合であるが、本発明は、ウィンドウ2A・2B・2Cを重ねないように並べて開いた場合、また、異なる複数のアプリケーションソフトを起動させてそれぞれのアイコンを表示させた場合、更に、アイコンがタスクバー領域以外のところに表示されている場合にも、同様に適用できる。

【0016】

【発明の効果】請求項1に係る発明では、任意のアイコンを選択すると、そのアイコンに関するアプリケーションソフトで編集対象となっているデータを、当該アイコンの近傍において吹き出しウィンドウ内に表示でき、また請求項2に係る発明では、音声データに変換して音声をもって報知できるので、同一のアプリケーションソフトを複数起動してタスクバーに同一のアイコンが複数表示された場合にも、目的のアプリケーションの特定を分かりやすく短時間に行える。

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明によるディスプレイ画面上の表示例を示す図である。

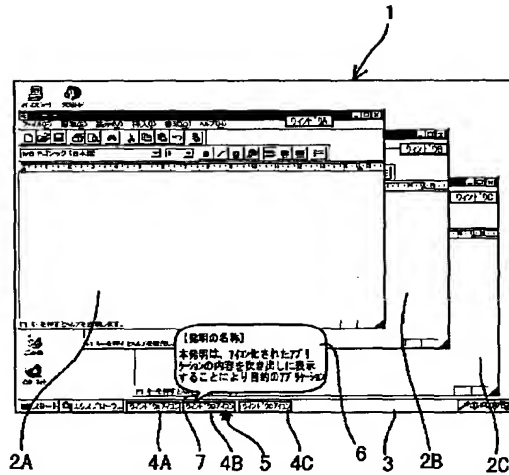
【図2】本発明による方法の一例のフローチャートである。

【図3】他の例のフローチャートである。

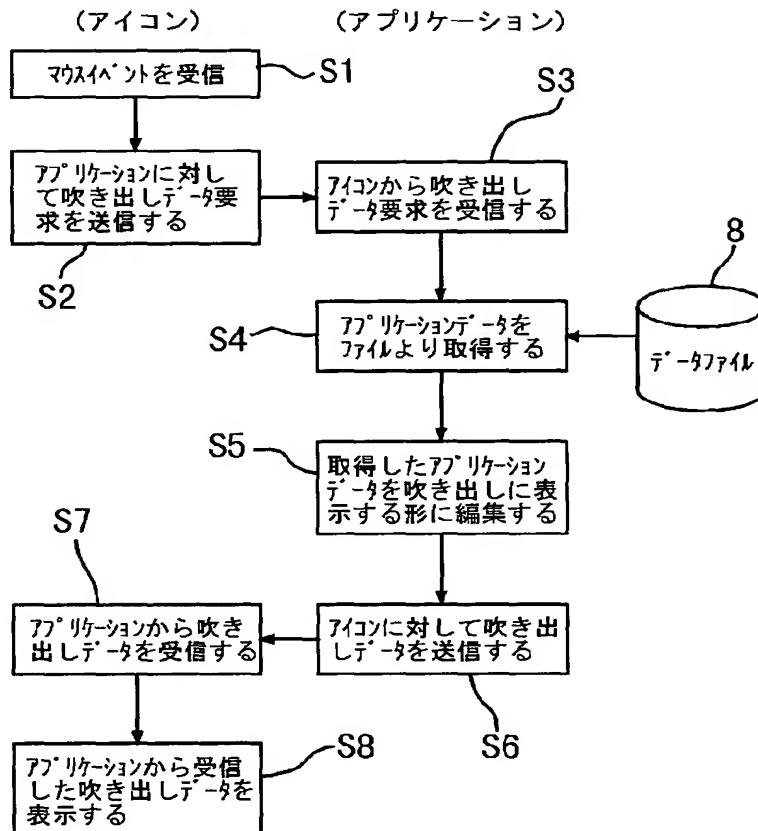
【符号の説明】

- 1 ディスプレイ画面
- 2A・2B・2C ウィンドウ
- 3 タスクバー
- 4A・4B・4C アイコン
- 5 カーソル
- 6 吹き出しウィンドウ
- 7 吹き出しウィンドウの延長部分
- 8 データファイル
- 9 音声ファイル

【図1】



【図2】



【図3】

